



マイセン

開窯300年
西洋磁器の誕生

陶磁器に出会う

平成 23 年 4 月 23 日(土) — 7 月 3 日(日)

開催要項



細見美術館

開催趣旨

1710年、ドイツのマイセン王立磁器製作所は、ヨーロッパで最初に東洋の磁器とほぼ同質の「硬質磁器」を生み出すことに成功しました。本展ではこのマイセン窯がザクセン選帝侯アウグスト強王の情熱のもとに開窯されて300年経ったのを記念して、マイセン窯の歴史のなかで最も栄光ある時代とされる、最初の半世紀の作品を紹介いたします。その後のマイセン窯のみならず、各地に開窯されたヨーロッパ諸窯のほとんどの様式や技法、文様はマイセン窯の最初期にして最高の、この半世紀に創出されたといっても過言ではありません。

天才的な二人の創始者、JGヘロルトの絵付けとケンドラーの造形によって、宮廷のためにのみ製作する王立の美術工房から、企業としての磁器工場へと発展してきたマイセン。この時期の作品は工芸品の域を超え、ドイツ・ロココを代表する芸術品といわれています。

華やかなだけでは終わらない、マイセン磁器の真髄を表した作品の数々とともに、それらを創り出した18世紀のヨーロッパ文化の特色を感じていただければ幸いです。

- 主催 細見美術館 毎日新聞社
- 開催日 平成23年4月23日(土)～7月3日(日)
- 休館日 毎週月曜日
但し、5月2日(火)は開館
- 開館時間 午前10時～午後6時
- 入館料 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
()内は20名以上の団体料金
- 会場 細見美術館
京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
電話075-752-5555
- お問合せ先：広報担当 三宅 由紀
Tel / 075-752-5555 Fax / 075-752-5955
E-mail / kouhou@emuseum.or.jp



構成・主な出品作品 (出品数 約140点)

第1章 / 初期作品：J.Gヘロルトの世界



色絵金彩人物文鉢 1723-24年

この作品は、胴部の窓枠一杯に人物を配し、飛び交う鳥と虫は、同じ大きさに描かれ自由に舞っている。裏面も同様に人物2人が表情豊かに見合っており、鉢の見込みには朱色単色でJ.Gヘロルトの自画像と伝えられる絵が描かれている。17世紀から18世紀前半にかけて中国からヨーロッパへ大量に運ばれた染付磁器の中に、花瓶や水注とともにこのような鉢が数多くあったことが、沈船の調査からわかっている。

第2章 / 東洋への憧れ



色絵金彩岩牡丹文双耳蓋物 1750年頃

J.Jケンドラーが創出し、人気を博した彫刻的な造詣のサーヴィス・ピースの一例で、柿右衛門様式風の花弁文が描かれた蓋物容器とその受皿である。蓋につけられた花と鳥、大きく曲線を描く把手のついた容器の豊かな姿などが特色である。描かれている花弁文には、柿右衛門様式の本来の繊細さはなく、明快な色調で大きく華々しい表現になっている。



白磁置物「羅漢」

「パゴダ」と呼ばれる坐像で中国の布袋像が元になっている。着衣を大きくはだけ、磊落ほていに足を組んで不適らいらくに笑う、耳の大きな禿頭の人物は、明時代以降弥勒の化身としても信仰を集め、数多く作られた。観音像とともに将来され、諸侯のコレクションにおさめられている。「東方趣味(シノワズリー)の典型例である。

第3章 / フィギュア(陶磁人形)は踊る



色絵置物コンメディア・デッラルテ

「ペドロリーノ」1744年頃

アウグスト強王の従兄弟の息子で、シレジア戦争で活躍したザクセン・ヴァイセンフェルス公ヨハン・アドルフ 世の結婚10周年にあわせて、1744年ごろにP・ライニッケとJ・Jケンドラーによって製作された。18世紀前半のザクセン選帝候国宮廷に流行したコンメディア・デッラルテ(イタリア喜劇)の登場人物を取り上げたものである。



色絵浮彫花付ポプリポット

「恋人たちと兎」 1750年頃

ポプリポットを金属台に据えて、磁器製の花々とフィギュアで装飾した作品。一つ一つが本物の植物のように自立して枝に咲く陶磁製の繊細な花は、フランスのヴィンセンヌ釜やセーブル釜が得意とした。金属製の台座にいくつもの陶磁性フィギュアや器を組み合わせるのは、よく見られる装飾法である。

第4章 / サーヴィスの世界



色絵金彩貼花「スノーボール」

ポプリポット 1745～60年

スノーボールのサーヴィスは、ケンドラーが1739年に選帝候妃マリア・ヨゼファのために作ったものが最初である。一つ一つ貼り付けられた小さな白い五弁の花が、器形の外側を隙間なく埋めつくす。その姿は小さな白い花が集まって鞠のように咲くためにスノーボールとよばれ、サーヴィスにもその名前がつけられた。内側には単色の風景画や、ワトー風絵画の人物図などが内部に描かれた作品も見られ、スノーボールのサーヴィスは内側の文様と合わせて鑑賞性の高い作品であったことが窺われる。